

# サービスの紹介

図書館が提供しているサービスをご紹介します。

## 〈広報テープの作成・郵送貸出〉

『広報西東京』をはじめ、『市議会だより』『社協だより』『公民館だより』『エガール』『図書館だより』各紙をテープに収録し、発行日までにお届けしています。

「新刊案内」は、図書館に新しく入った本の中から60点あまりを抜粋して紹介し、毎月発行しています(この中から希望のあった本を音声訳します)。また、昨年「情報テープ」として、市のさまざまな話題や福祉情報、インタビューや使いやすい機器情報等をまとめ、月1回発行しています。(下段参照)

これらのテープのうち、ご希望のものを定期的に郵送で貸し出ししています。郵送料は無料です。

## 〈録音図書への貸出・作成〉

録音テープに音声訳した録音図書を貸し出していきます。録音図書には市販されているものと図書館で作成したものがあ

ります。ご希望のものが図書館にない場合は、全国の図書館

# ハンディキャップ・サービス

## —図書館利用のために—

の細かいルールがあり、専門技術が必要とします。利用者から希望のあった図書の点訳等の図書館の依頼には、敏速に対応して下さるので大変心強いです。昨

年は図書館の30周年記念として実施した「大人のための点訳講座」の講師をお願いし、また、教材もすべて提供していただきました。

会の活動は図書館のみならず、直接依頼される利用者への点訳活動、市内の各小学校で総合学習の一環で行われる「点訳教室」の講師など、地域に根ざした活動を積極的にされています。

## 〔西東京市図書館音訳の会〕

録音図書・広報テープの作成や対面朗読は、すべて音訳者の協力を得て行っています。「音訳」にあたっては、視覚障がい者の目の代わりをし、耳で聴いてわかりやすい表現を心がけています。そこで、図書館では、専門技術を有する音訳者を養成しています。さらに、多方面にわたる専門研修を実施して音訳技術の向上に努めています。



録音図書の作成

から取り寄せて貸し出します。また、必要に応じて、著作権者の許諾を得て、新たに作成します。

手元において利用したい個人的な資料や取り扱い説明書などもプライベートテープとして作成しています。

## 〈点訳図書の貸出・作成〉

ご希望の図書を点字にした点訳図書を貸し出しています。

図書館に所蔵がない場合は、全国の図書館から取り寄せて貸し出しします。個人的に必要な資料や文書の点訳も行っています。

## 〈布の絵本さわる絵本の貸出〉

視覚に障がいのある児童を対象に、手で触って読める点字つきの絵本「さわる絵本」や発達障がいのある児童を対象にした遊びながら読める「布の絵本」の貸し出しをしています。

## 〈対面朗読〉

利用者の目の代わりとして、その場で活字情報を音声訳しています。1回2時間以内で、2名の音訳者がお手伝いします。印刷物のほか私信やメモなどあらゆるものが対象です。お近くの図書館で受けられます。



デジター図書を聴くための機械

「音訳の会」は合併と同時に発足し、現在、登録している方は、20年以上というベテランから新人まで75名です。広報・音訳資料・対面朗読のグループに分かれて活動しています。専門研修のほかにも自主的に勉強会を開き、共に学びながら活動に参加しています。

## これからのサービス

日本点字図書館(高田馬場駅下車)は、所蔵する2万タイトル34万巻の録音図書の貸し出しを二〇一一年三月で廃止すると発表しました。

カセットテープの国内生産中止や録音機器の製造中止に加え、デジター図書(音声)をデジタル化してCD-R1枚に長時間収録可能、国際標準規格の貸し出しが録音図書を上回るようになったからです。これにより区市町村の図書館で

## 〈宅配サービス〉

来館が困難な方へ、ご自宅まで本や雑誌等をお届けしています。事前にご希望の資料をうかがい、定期的に職員がお届けします。

身体障害者手帳をお持ちの方は、郵便法の範囲内で郵送料が無料となります。

## 〈聴覚障がいの方へ〉

カウンターで、筆談等でおこなえています。

## 〈館内利用の手助け〉

拡大鏡や拡大読書機(中央・芝久保・谷戸)、大きい文字で印刷された大活字本、車イス優先利用者用検索機(中央・下保谷・柳沢・ひばりが丘)、障がい者用駐車場を用意しています。

※このようなサービスの利用をご希望の方は、お気軽に図書館へお問い合わせください。

## 他機関との連携

広報テープの作成にあたっては、広報広聴課・議事事務局・公民館・社会福祉協議会・生活文化課などと打ち合わせを行います。発行日にあわせてテープ版が届くよう原稿を受け取り、録音と校正を同時進行で行って作成しています。

もデジター図書主体に移行していくでしょう。

さらに、インターネットによる情報提供、音声変換ソフトの活用やSPコード(18ミリ角の中に日本語八千字のテキストデータを記録できるデジタルコード)などへ情報環境が大幅に変化していく過渡期にあたります。

利用者の方々の声を聞き取りながら、音訳者・点訳者・各部署とともに協力体制を取り、迅速な情報提供を行っていききたいと思います。

## 報告 利用者交流会

年に一回、利用者と音訳者と図書館との交流の場として利用者交流会を開催しています。

交流会がなければ、ほとんどの利用者は音訳者の声しか聞いたことがなく、音訳者にいたっては利用者の声も顔も知らないという状況です。利用者交流会はそのような両者のふれあいを通じ、よりよい関係づくりを目指しています。また「情報テープに最近の街の様子や流行を入れてほしい」、「対面朗読はテープにはない温かさがあってよい」といった、利用者の忌憚のないご意見・ご要望をうかがうこともでき、サービスの向上に役立っています。今年度の参加人数は利用者13名、

## 情報テープ 創刊号目次 2006年6月号

- 図書館からのおしらせ
- 福祉情報…朗報「コウモリの杖」/AMラジオで歩行サポート/「酒蔵」を肌で感じて久米川の酒造会社見学/朗読CD、カセットの対象拡大/日本代表ここにも「ブラインドサッカー」世界選手権/日本の点字ブロック世界へ
- 今月のひとり(インタビュー)
- 街の話題…「地域医療支援病院」新たに4ヶ所承認/西東京市役所環境保全、大学生が点検/温故知新「まちからまちへ」ひばりヶ丘駅周辺/生まれ変わった花小金井駅北口/西東京市が大油田に!/?/学生が運営するカフェ誕生、伏見通り商店街/市内小学校2校に「緑のカーテン」プランターを設置/東久留米の梅ワイン/清瀬高校あじさいウィーク
- アラカルト…宮城道雄没後50年

特に、障害福祉課とは協力し合って情報提供をしています。課の窓口では、図書館利用案内テープ版とパンフレットを手渡しして、図書館を紹介しています。また、最近では「障害者自立支援法・利用のてびき」や「はなバス時刻表」などのテープ版・点字版を作成しました。

今後も、行政として柔軟に対応できるように、他の機関との積極的なかわりを持ちたいと思います。

## サービスを支える協力者

### 【点訳の会「やまづき」】

「ともしび」は点訳ボランティアとして20年以上も活動している市民サークルです。

図書館で作成する点訳の資料はすべて「ともしび」に作成を依頼しています。点訳には分かち書きなど



利用者交流会

音訳者38名、うち初参加の方も数名おり、例年より多くの方が足を運んでくださいました。

今回はいつもと趣向を変え、懇談の後「保谷和太鼓会」による演奏を企画しました。体の奥に響き渡る勇壮な和太鼓の音に、会場中が心躍らせ聴き入っていました。また、演奏終了後の「体験コーナー」では実際に太鼓をたたくことができ、初めて触れる和太鼓の振動を大いに楽しまれていたようです。

2時間半という限られた時間ではありますが、今後も様々な趣向を凝らし、何度でも参加していただけるような会として継続していききたいと思えます。